

今回は説明文、論説文の読解力を身につけるための学習方法について説明します。

説明文、論説文の読解においては、細部を正確に読み取る力と、文章全体の内容を大きくとらえる力が求められます。文章はいくつかの形式段落を積み重ねていくことで成り立っています。ですから、それぞれの形式段落に書かれている細部の内容を正確に理解することが必要です。しかし、細部にばかり気をとられていては、筆者がその文章を通して何を言いたかったのかがすっきりと頭に入ってきません。国語が苦手な人は、どうしても今自分が読んでいる部分の内容を理解することだけに意識が向いてしまい、本文全体の中で今読んでいる部分がどのような働きをしているのかについて考えることが、おろそかになってしまいがちです。その結果、文章を最後まで読んでも、文章の見取り図が描けていないため、内容が頭に残らないという状態になりがちです。

では初めに、細部を正確に読み取る方法から説明していきたいと思います。

文章は、筆者の考えや、これから説明する内容やこれまでに説明してきた内容をまとめている抽象的部分と、例やたとえを用いて説明している具体的な部分から成り立っています。当然、抽象的に書かれている部分に大切な内容が書かれているので、まず文章の中から抽象的に書かれている部分を見つけられる力を身につけることが大切です。しかし、抽象的な部分が大切だと言っても、具体的な説明の部分が必要ないわけではありません。抽象的に書かれているところは、書いてある内容が難しかったり、一読しただけではわかりにくかったりするものです。ですから、具体例やたとえの部分の補完的に読むことで、抽象的部分がどういうことを言っているのかを理解するように心がけてください。

次に、抽象的に書かれている部分を見つける方法を4つ説明していきたいと思います。

①キーワードが入っている文に注目する。

文章の中で何度も繰り返し使われている言葉や、話題に関連する言葉の入っている文をおさえるようにします。

②強調表現が使われている文に注目する。

「～しなければならない」「～するべきだと思う」などのように、強調する表現が使われている文をおさえましょう。

③接続語に注意する。

「だから」「したがって」などの順接の接続語の後ろ、「しかし」「ところが」などの逆接の接続語の後ろ、「つまり」「このように」などのこれまでの内容をまとめたり、言い換えて説明したりする働きをする接続語の後ろは、注意して読むように心がけましょう。具体例をあげて説明する接続語「たとえば」は、「たとえば」の前に抽象的な内容が書かれています。

④各形式段落の初めの一文と終わりの一文に注目する。

日本語の文章では初めと終わりに大切な内容が書かれることが多いので、各形式段落の初めと終わりは注意して読んでください。文章全体で言えば、初めの形式段落と最後の形式段落が大切な段落と言えます。

基本的には抽象的な部分と具体的な部分は交互に出てきますので、どこで入れ替わるかに注意しながら読み進めるようにしてください。また、重要な文に線を引きながら読むようにするとよいでしょう。

続いて、文章全体の構成を考えながら本文を読めるようになる力の身につけ方について3つ説明します。

①序論、本論、結論という大きな枠組みを意識してみる。

初めの段落ではその文章の話題が提示され（序論）、その後、例や理由をあげながら、話題に対しての具体的な説明があり（本論）、最後の段落でその文章を通して伝えたいことを述べる（結論）という形式の文章が、中学入試で出題される問題では多く見られます。

②これから書かれるであろう内容を予測しながら文章を読むようにする。

たとえば、「どうしてそう言えるのだろうか」のように、疑問文が出てくれば、その答えとなる内容が筆者の主張となっていることが大半なので、疑問文が出てきたら、その答えがどこで説明されるかを意識しながら文章を読むようにします。また、「初めに」「まず」「さらに」「しかも」「また」「～だけでなく」などの言葉が出てくれば、どのような内容と、どのような内容が並列されているのかに注意しながら読み進める必要があります。また具体例の部分は、何の例を説明している箇所なのかを念頭におきながら読むことが重要です。

③文章の論理展開を追いかける。

論説文では、話題となることに対して、例をあげることで読者の理解を深めたり、主張に対する理由を説明したりしながら、文章を結論へと導いていきます。入試問題で高得点を取れるようになるには、細部を読みながら、同時に文章全体の大きな流れをつかむことができるようになることが必須です。文章の論理展開を理解しながら細部を読めるようになる練習方法を紹介します。それは、形式段落をひとつ読むごとに一度読むのを止めます。そしてその形式段落の内容を、抽象的に書かれている部分に着目して頭の中でまとめてください。まとめることができたなら、次の形式段落を読み、同じようにその段落の内容をまとめます。次に今読んだ形式段落の内容と、一つ前の形式段落の内容の関係を考えるようにしてください。同じ内容が続いているのか、前の段落の具体例があげられているのか、前の段落に書かれたことの理由が述べられているのかなどを意識して考えてみましょう。これを繰り返して文章を終わりまで読みます。そして最後に、その文章は何について書かれていて、どのようなことを筆者が言いたかったのかについて、必ず考えるようにしましょう。

今回説明したことはとても難度の高いことですが、文章構成という見取り図を頭の中に描きながら細部が読めるようになると、より正確に文章を理解することができるようになります。また、文中のどの部分にどんな内容が書かれていたのかを意識できていますので、設問を解く力も上がっていきます。

最後に、各回のポイントをあげておきます。

第5回

今回は理由の記述を学習します。まず、傍線を含む文脈を読んで、理由が書かれている箇所をさがすようにしましょう。自分の書いた答案に、「なぜ？」という疑問が生じないかどうか確認してください。疑問が生じるときは、その疑問に対する理由までさかのぼる必要があります。最後に、自分の答案と傍線部をつないで読み、意味が通じるかどうか確認するようにしましょう。

第6回

今回は愛光中の入試問題研究を行います。60分で問題を解き、解説動画を見るようにしてください。はじめに問題全体を見て、どの問題から解き始めるか、戦略をたてましょう。また、1問に時間をかけすぎないように、時間配分に気をつけて解くようにしてください。

第7回

今回は心情説明の記述を学習します。心情の記述では、「きっかけとなる出来事」と「心情」の2ポイントをまとめるようにします。「きっかけとなる出来事」から考えた方がよいか、「心情」そのものから考えた方がよいかは、傍線が引かれている部分によって決まります。今回の授業で学びとってほしいと思います。

2月から6年生の学習がスタートしましたね。学習のペースをつかんでしっかりと取り組んでいますか。この講座は基本的な内容がしっかりと定着した上で、さらに発展的な内容を身につけることを目的にした講座となります。基本の徹底を大切に、取り組むようにしてください。

動画の構成としては、まずは〔重要問題〕が各回10題程度収録されています。〔重要問題〕はまず自力で取り組んでください。そのとき、ノートには式や考え方をかいて、整理をしながら取り組みましょう。その後、答え合わせをして、まちがえた問題（できなかった問題）は必ず動画を見ながら解法の手がかりとなる考え方を習得してください。できれば、できた問題も解法の整理をするために、動画を見ることをおすすめします。〔練成問題〕は、〔重要問題〕から派生した問題を中心に収録しています。このうち、発展的な内容を扱うタイプのうち、特に重要なものを動画で扱っていますので、どんどんチャレンジしていきましょう。

3月は、論理的な思考が求められる「数論」分野に取り組みます。各回の学習の目安は以下の通りです。

◆第5回 数論 I

約数・倍数がテーマとなります。約数はわり算、倍数はかけ算が基本のイメージになります。いずれにしても、どのような整数から成り立っているかを考えながら取り組みましょう。

①〔重要問題〕

①, ②, ③—倍数と余り

共通な最小の整数を発見し、その後は最小公倍数ずつ増えていくイメージですね。

④—割り切れる回数

素数で割るのか、合成数で割るのか、しっかりと確認しながら取り組みましょう。

⑤—約数と余り

割る数は余りよりも大きいという条件は確認しておきましょう。

⑥—約数の個数

コインを裏返す回数と約数の個数とが一致します。このことからわかることを考えていこう。

⑦—商と余りが同じ

割られる数は、43の倍数になります。この理由は確認しておきましょう。

⑧—既約分数の個数と和

「約分できる分数」は、分子が3または5の倍数ですね。また、個数と和はセットで理解しておきましょう。

⑨—すだれ算の利用

すだれ算をかくと、自然と方針がたってきますね。

⑩—最小公倍数の利用

「のりしろ」の扱いに注意しながら取り組みましょう。

⑪—等しい余り

「ある数の倍数」－「ある数の倍数」＝「ある数の倍数」になります。まずは差に注目しましょう。

⑫—最小公倍数の利用

倍数の分布の問題です。3つのベン図の重なりに注目して取り組みましょう。

②〔練成問題〕

練成問題では、いくつか選択して動画で扱っています。その問題についてはしっかりと理解をしましょう。余裕があれば、残りの問題にも取り組んでください。ただし、理解には段階があります。時期を経て再び扱う問題もあるので、全部解かないといけないと思う必要はありません。

◆第6回 数論Ⅱ

規則性がテーマとなります。いろいろと試行していくことで、はじめて「規則」が発見できます。粘り強く取り組んでいきましょう。

①〔重要問題〕

① 一等差数列

規則性の基本となる数列です。「 \square 番目を求める」「 \square 番目までの和を求める」どちらも大切ですのでがんばっていきましょう。

② 三角数

1列目には三角数(1から順に足した数)が並んでいます。三角数をテーマにした問題は数多く出題されていますので、確認しておきましょう。

③ 一階差数列

差が等差数列になっている数列ですね。ここからも等差数列が大切であることがわかります。

④, ⑤ 一周期

④は、問題文に規則が記されていますが、⑤は、自ら規則を調べないといけません。規則がわかれば、あとは方針がたちますね。

⑥ 日暦算

日暦算は周期の考え方が基本です。あとは、「大の月・小の月」や「うるう年」など、細かな知識を理解しておきましょう。

⑦, ⑧, ⑨ 複数の周期

複数の周期が出てくると、最小公倍数でそろえて、新たな周期を考えます。この周期内までは調べ上げてください。

⑩, ⑪ N進法

10進法と5進法の変換のやり方は大丈夫ですか。これを発展させた変則3進法も理解しておきましょう。

②〔練成問題〕

練成問題では、いくつか選択して動画で扱っています。その問題についてはしっかりと理解をしましょう。余裕があれば、残りの問題にも取り組んでください。ただし、理解には段階があります。時期を経て再び扱う問題もあるので、全部解かないといけないと思う必要はありません。

◆第7回 場合の数

場合の数は苦手とする生徒が多い単元です。まずは、基本的な解法を定着させて得点力を上げていきましょう。

①〔重要問題〕

①ーカード並べ

「0」のカードがある」「同じカードが複数ある」ときは注意が必要です。並べ方ではなくて、できる整数であることを確認しておきましょう。

②ーサイコロ問題

サイコロは、場合の数では、よくテーマになる道具です。慣れておきましょう。

③ー複数の要素

同じ要素が複数あるパターンの問題です。考え方をしっかりと身につけておきましょう。

④ーできる数の和

3けたの数で考えるのではなく、位ごとに和を考えていくことがポイントです。

⑤, ⑥, ⑦ー条件つき順列

条件が厳しいということは、場合の数は少ないということです。しっかりと調べ上げましょう。

⑧ーじゃんけんの問題

じゃんけんも、場合の数では、よくテーマになる道具です。慣れておきましょう。

⑨ー道順

交差点ごとに、何通りの行き方があるかをていねいに調べていきましょう。

⑩ー並べ方

「取り出す」⇒「並べる」の2段階があることを理解して取り組みましょう。

⑪ー色ぬり

「色の数」よりも「場所の数」が多いときは、同じ色を複数の場所にぬることになります。どこどこに同じ色をぬるのかを考えていきましょう。

⑫ー長方形の数

たて2本、横2本を選ぶと、自動的に長方形ができます。この考え方を理解しましょう。

②〔練成問題〕

練成問題では、いくつか選択して動画で扱っています。その問題についてはしっかりと理解をしましょう。余裕があれば、残りの問題にも取り組んでください。ただし、理解には段階があります。時期を経て再び扱う問題もあるので、全部解かないといけないと思う必要はありません。

算数強化ツールにつきましては、以下ご参照ください。

◆第4回（テキスト表記は22回…括弧内は以下同 規則性）

規則性に関する色々な問題に取り組みます。一概には言えませんが、規則性においては、小さい例で正しいかどうか確かめる…ということが重要になることが多いと思います。学習対象問題は1～13です。14～23は余裕があったら取り組んでください。

算数強化ツールに関しては、動画は「応用」の前半の部分を扱いますが、少し引っかかることが多いと感じた場合は、「基礎」や「共通」の部分も使って、練習を積むことをお奨めします。

◆第5回（23回）場合の数

場合の数に関する問題となります。場合の数で重要なことは、ある種の便法(計算など)で求められるのか、ある意味での書き上げをしていくしかないのか、というところの判断です。

8のじゃんけんや、17の、すべての並び替えでできる整数の和という題材は、定番になります。

◆第6回（24回）和差に関する文章題

和差に関する文章題が色々取り上げられています。線分図や表などで、条件を出来るだけ視覚的に整理することが重要になります。